

4 就職状況

大学生の就職率、就職希望率とも過去最高に

厚生労働省と文部科学省は6月12日、令和2（2020）年3月の大学等卒業者の就職状況について共同調査した結果を公表した。

それによると、2020年4月1日時点の大学生の就職率は98.0%（前年同期比0.4%上昇）で、2018年の4月1日時点（98.0%）と並んで過去最高を記録した。また、大学生の就職希望率も77.0%（同1.0%上昇）と過去最高を更新したことが明らかとなった。

その背景について、厚労省では、「今春卒の本格的な採用時期は昨年で、人手不足による企業の採用意欲の高さが反映した結果ではないか」としている。また、新型コロナウイルスの影響については、「感染拡大後は内定取り消しや入社時期の繰り下げがあった。未就職者は、新卒応援ハローワークで支援していく。来春卒の就職への影響がより大きくなる可能性があり、採用動向を注視していく」などとしている。

大学生の就職希望率が77%に

調査は、厚生労働省と文部科学省が共同で、10月、12月、2月、4月の年4回、実施・集計しているもの。各大学等で所定の調査対象学生を抽出した後、電話や面接等を通じて就職希望の有無や就職状況等を調査している。調査の依頼先は、両省で抽出した112校（国公立大学が24校、私立大学が38校、短期大学が20校、高等専門学校が10校、専修学校（専門課程）が20校）。対象人員数は大学、短期大学、高等専門学校の計5,690人と専修学校（専門課程）の560人で、合わせて6,250人となっている。

それによると、2019年度の大学等卒業者において、就職を希望する割合（就職希望率）は、大学が前年同期比1.0%上昇の77.0%（うち、国公立大学が同2.0%上昇の57.3%、私立大学が同0.4%上昇の86.7%）となっている。大学生の就職希望率は1997年の調査開始以来、過去最高を記録した。

また、短期大学の就職希望率は、同0.8%上昇の83.7%。高等専門学校は、同4.0%低下の58.0%となっている。これらを合わせた大学等（大学、短期大学、高等専門学校）は、同0.6%上昇の76.3%となっている。また、専修学校（専門課程）は同1.1%低下の88.4%となっており、これらを合わせた総計は、同0.4%上昇の77.3%となっている。

大学生の就職率は98%

就職希望者に対する就職者の割合（就職率）は、大学で前年同期比0.4%上昇の98.0%となった。このうち、国公立大学の就職率は、同0.9%上昇の98.2%。私立大学は、同0.2%上昇の97.9%となっている。

また、短期大学の就職率は、同1.6%低下の97.0%、高等専門学校は、同0.4%上昇の100.0%となっている。

大学等（大学、短期大学、高等専門学校）を合わせた就職率は、同0.2%上昇の98.0%となっている。

また、専修学校（専門課程）は、同0.2%上昇の96.8%となり、これらを合わせた総計は、同0.1%上昇の97.8%となっている。

男子の就職率は97.5%、女子は98.5%

大学生の就職率について男女別に見ると、男子は、前年同期比0.2%上昇の97.5%、女子は同0.7%上昇の98.5%となり、男女とも前年比で上昇している。

男子のうち、国公立大学は同1.2%上昇の97.9%、私立大学は同0.1%低下の97.4%となっている。一方、女性のうち、国公立大学は同0.8%上昇の98.6%、私立大学は0.6%上昇の98.4%となっている。

国公立大学理系の就職率が99%

大学生の就職率を文系・理系別に見ると、文系が前年同期比0.4%上昇の97.8%、理系が同0.1%上昇の98.5%となっている。

文系については、国公立大学が同0.8%上昇の97.9%、私立大学が同0.3%上昇の97.8%となっている。一方、理系は、国公立大学が同1.4%上昇の99.0%、私立大学が同0.8%低下の98.2%となっている。

最も高い就職率は中部地区

大学生の就職率を地域別に見ると、中部地区が前年同期比1.4%上昇の99.3%と最も高くなっている。続いて、近畿地区が同0.9%上昇の98.9%、関東地区が同0.1%上昇の98.2%、北海道・東北地区が同0.3%上昇の97.5%、中国・四国地区が同1.6%低下の95.5%、九州地区が同0.1%上昇の95.3%となり、中国・四国地区を除いて、前年比で上昇している。

（調査部）